

U-32 Young Officials' Camp 2016 参加報告書

1. 日程：平成 29 年 1 月 7 日（土）～1 月 9 日（月祝）
2. 会場：国立代々木競技場第一体育館・会議室他
3. 参加者：30 名
 - ① JBA 推薦（男女トップリーグ担当者の中で 32 歳以下の者）5 名（男性 2 名・女性 3 名）
 - ② ブロック推薦（各ブロックより推薦を受けた 32 歳以下の者）25 名（男性 21 名・女性 4 名）
4. スケジュール・研修内容

初日 1 月 7 日（土）

13:30～	開講式 阿部 哲也 氏
14:00～	講義① ・審判「早期育成」について 平 育雄 氏 ・「ガイドライン」解説 宇田川 貴生 氏、安西 郷史 氏
15:00～	観戦研修 女子準決勝（JX VS トヨタ）
17:00～	講義② ・振り返り・ディスカッション 宇田川 貴生 氏 ・3PO メカニクス 上田 篤拓 氏

内容

まず初めに、平氏より今年度から新たな試みとして実施される U-32YOC の目的をお話いただきました。1 つは、国際審判員資格取得の向けて様々な刺激を受けてモチベーションを上げること。2 つ目に、日本のトップレベルのゲーム、審判に触れるだけでなく、新たにトップリーグで導入されている映像を用いた分析にも触れる機会を持ち、3 日間継続して意欲的に研修に参加することが確認されました。国際審判員の新たなライセンス制度を紹介していただき、国際審判員にトライする為に必要な要素（年齢・国内資格・体格・人物等）を具体的に示していただいたことで、今やるべきことがはっきり見えるようになりました。

宇田川氏からは今回のメインテーマでもある「ガイドライン」の正しい理解について、講義していただきました。悪い手・腕・肘の整理におけるガイドラインでは、ファウルの 3 原則（事実・責任・影響）を常に考えること、プレイヤーのリアクションではなく、アクションを捉え判定すること、そして判定に根拠（説明責任）を持つことを強調されていました。『影響』を『RSBQ』（Rythem, Speed, Balance, Quickness）の 4 つに落とし込み、「何に」影響が出たのか考えるようにすること、ハンドチェックを何故 RSBQ の考えと区別するのか教えていただきました。そして正しく判定を積み重ねることがゲームコントロールにおいて重要なことに改めて気づくことができました。

ガイドラインの説明後の観戦研修・ディスカッションでは、2 つのケースの判定に対する根拠を受講生の中で意見を出し合いました。「なんとなく悪い」という感覚を無くし、判定の精度を研ぎ澄ます必要性を感じ、根拠の拠り所としてガイドラインを利用していくことが確認できました。上田氏からは、現在トップリーグでも導入されている様々な用語について解説していただきながら、基本的なメカニクスについて教えていただきました。Ball side = Strong side を心がけながら、プライマリーがどのように引き継がれているのか、ローテーションの順序などについて整理していただき、今後の私にとって有意義なものになりました。自分がレフリーディフェンスすべきポイントはどこかを考えながら、今後は 3 人の審判員で 1 つのクルーとして試合を担当することが 3PO では大切だということが学べました。

2 日目 1 月 8 日（日）

9:15～	FADP 国際審判研修講義 聴講
12:00～	観戦研修 男子準決勝（川崎 VS A 東京）
15:00～	講義③ ・映像研修 片寄 達 氏、上田 篤拓 氏、 男子準決勝担当審判員（宇田川 貴生氏、北沢 岳夫 氏、加藤 誉樹氏）
17:00～	観戦研修 女子決勝（JX VS 富士通）

内容

事情により、講義③からの参加となりました。講義③では、男子準決勝担当審判員の方々と一緒に担当した試合について映像分析を行いました。まず初めに、試合を通じて最も印象的なケースであったオフボールでのアンスポーツマンライクファウルについての映像分析では、3人方の対応を参考にしながら、突発的に起こる現象に対しての役割分担・確認すべき事についてディスカッションをしました。上田氏からは、そのような状況の時でもクルーがコミュニケーションを取り、ボールのステータス、ゲームの再開方法等について確認していくようにアドバイスがありました。印象深いケースを映像で解析することでベストの判定を導くことができましたが、現場の3人方の生の感覚を聞くことができ、あの舞台で審判することの難しさも同時に感じました。その後は、試合開始から映像を流していきながら、一つひとつの攻防を丁寧に解析していきました。その中でも、ゲームの序盤で現象を判定することでチームにメッセージを伝え、自分自身のテンポを作り上げ、そしてゲームのテンポをレフリースайдから築いていくことの重要性にも触れていました。

女子決勝の試合観戦では、講師の方々が仰っていただいたように、ただ何となく観戦するのではなく、1試合を観る中でも注目すべきポイントを絞り、今回は自分なりに3POのメカニクスや、ガイドラインに基づく判定の根拠に注目しながら観戦しました。そうすることでトップレベルの試合の中からプレイの見方や審判技術に対して学ぶことがいつも以上にありました。

3日目 1月9日（月祝）

時間	研修名及び講師
10:00～	講義④ 映像・語学 上田 篤拓 氏
10:30～	講義⑤ 映像・プレイコーリング 宇田川 貴生 氏、片寄 達 氏、上田 篤拓 氏
12:00～	閉講式 阿部 哲也 氏
14:00～	観戦研修 男子決勝（川崎 VS 千葉）

内容

講義④では、2つのケースを映像で見た後に、その判定について自分なりの意見を英語で解答するというワークをやりました。その後は、受講生で2人ペアを作り、自己紹介（英語で話す、書き取る）を3分間ずつしました。毎日3分間でいいので英語に触れることが第一歩で、自分のキートピックを見つけて、会話でのイニシアチブを取ることが外国人とのコミュニケーションでは必要だというアドバイスをいただきました。

講義⑤では、片寄氏からは実際にトップリーグで使用しているクルーミーティングの内容を紹介していただきました。前節までの当該チームの状況を様々な視点から情報共有をし、ゲームを把握・管理できるような最大限の準備を行ってトップリーグでは試合に臨んでいることが分かりました。また、3日間の研修を踏まえて、もう一度ガイドラインに沿って、6つのケースについて映像研修を行いました。研修のテーマであるガイドラインの理解について、3日間受講生の間でコミュニケーションを取りながら整理していったおかげで初日より判定に対する根拠を持って意見を持つことができました。吹くための裏付けを持つことが、判定・信念をぶらさずにしていく事につながっていくことを再確認できました。

5. U-32 Young Officials' Camp 2016 に参加して

昨年度までの早期育成プロジェクトには参加した事がなく、国際審判員にトライする資格を有する可能性を持つ全国の若手審判員の方々と共に今回のプロジェクトに初めて参加できたことは私にとって大変貴重な経験になりました。3日間を通して、数多くの講師の方々からお話をいただく中で、私自身の審判活動に対する取り組み方が如何に甘いかを痛感しました。一つの判定に対する根拠を持つためにどれだけこだわるのか、映像を活用してプレイの中身を分析し、次のレフリングにどう生かすのか等、今後の活動に対するヒントを与えていただきました。その中でトップレベルの試合を吹きたいというモチベーションが高まると同時に、そういった試合を担当する厳しさも肌で感じましたが、トップレベルを常にイメージしながら、目の前にある今できることに全力で取り組んでいく所存です。

最後に、今回の研修に対してご尽力いただいた日本バスケットボール協会阿部部長をはじめ、講師の方々、日本協会の方々、推薦していただいた久保ブロック長に厚く御礼申し上げます。有難うございました。